

十字架の再発見①—イエス処刑の政治的・ユダヤ教的理由

原田元道

十字架刑について

- ・ 「最も残酷で屈辱的な処罰(a most cruel and ignominious punishment)」(古代ローマの政治家・哲学者キケロの言葉)
- ・ ローマ帝国以前から普及(古代のペルシア人、アッシリア人、スキタイ人、インド人、カルタゴ人、ケルト人などの間で)
- ・ ユダヤ人たちの忌み嫌う処刑法
←(処刑後に)「木にかけられた者は神にのろわれた者」(申命記 21:23)
- ・ 処されるのは原則、ローマの市民権をもたない奴隷や罪人たち(特にローマ帝国に対する反逆者) ⇒見せしめとしての役割(比較：マタイ 27:39-44)
- ・ 処刑法には地域差(形も†だけでなく T、X、I字型もあり)
 - 【はりつけ前】
 - ◇ 拷問を受ける(むち打ちなど)(マタイ 27:26-31)
 - ◇ 横木を背負って処刑地まで移動させられる(マタイ 27:32)
 - ◇ 罪状書きや「(反逆者の)肩書」を持つ者が先導(マタイ 27:37) ⇒嘲笑の的
 - 【はりつけ時】
 - ◇ 衣服を脱がされる(マタイ 27:35)
 - ◇ 両腕・両手を横木に釘打たれる・ひもで結わえ付けられる(ヨハネ 20:25)
 - ◇ 両足を(縦の)柱に釘打たれる・ひもで結わえ付けられる
 - 【はりつけ後】
 - ◇ 死ぬまで(数時間から数日間)放置される
 - ◇ 糞尿は垂れ流し
 - ◇ 寒暖はしのげない
 - ◇ 空腹と脱水症状
 - ◇ 野犬やカラスにされるがまま
- ・ 死因は単一ではなく複合的(出血多量やショック死、窒息や酸欠など)
⇒想像を絶する肉体的かつ精神的な苦痛が長時間続く

イエス処刑から復活までの時間の流れ

【木曜日の夜から金曜日未明】

- 弟子たちと最後の晚餐(マルコ 14:12-26)
- ゲツセマネでの祈り(マルコ 14:32-42)
- (ユダの裏切りにより)逮捕され大祭司カイアファの舅アンナスの所へ連行(マルコ 14:43-50；ヨハネ 18:12-13)
- アンナスによる尋問後、大祭司カイアファの所へ連行(ヨハネ 18:19-23)
- カイアファと最高法院のメンバーによる審議(マルコ 14:53-65) ⇔ ペテロの否定(マルコ 14:66-72)

【金曜日の明け方から日没】

- ユダヤ人の最高法院(通常は日中に開かれるので非公式もしくは臨時の議会)で裁判(ルカ 22:66-71；マルコ 15:1)
- ピラトによる尋問(ルカ 23:1-5)
- ヘロデによる尋問(ルカ 23:6-12)
- 再度、ピラトによる尋問、そして死刑判決(ルカ 23:13-25)
- 十字架にはりつけ(マルコ 15:25 では午前九時；ただし、ヨハネ 19:14 では正午ごろにピ

ラトによる死刑判決) ⇔ 正午から午後三時まで全地が闇に(マルコ 15:33)

→死亡(午後三時; マルコ 15:33-37)

→日没前に埋葬(マルコ 15:42-47)

【金曜日の日没から土曜日の日没・・・安息日】

【日曜日の明け方】

死からよみがえった姿で女性たちと対話(マタイ 28:1-10)

イエス処刑の表向きの理由(罪状)

・ 宗教指導者たち：冒瀆罪(マタイ 26:63-66) ←神だけがもつ性質や権威を人が主張すること
(比較：ヨハネ 10:33; 19:7)

・ ピラト：反逆罪(ルカ 23:2; ヨハネ 19:12, 19-22)

⇒二つの異なる罪状

イエス処刑の本当の理由

・ 宗教指導者たち：

➤ 恐れ ←「祭司長たちや律法学者たちはこれを聞いて、イエスをどのようにして殺そうかと謀った。群衆が皆その教えに打たれていたもので、彼らはイエスを恐れたからである。」
(マルコ 11:18; 比較：ルカ 19:47-48)

➤ ねたみ ←「(ピラトは)祭司長たちがイエスを引き渡したのは、ねたみのためだと分かっていたからである。」(マルコ 15:10)

➤ 自己保身 ←「そこで、祭司長たちとファリサイ派の人々は最高法院を召集して言った。『この男は多くのしるしを行っているが、どうすればよいか。このままにしておけば、皆が彼を信じるようになる。そして、ローマ人が来て、我々の神殿も国民も滅ぼしてしまうだろう。』…この日から、彼らはイエスを殺そうとたくらんだ。」(ヨハネ 11:47-48, 53)

・ ピラト：自己保身 ←少なくとも三度、イエスの「無実」を認めた(ルカ 23:4, 14-15, 22)にもかかわらず、暴動が起こるのを防ぐため(マタイ 27:24-26)、帝国への「反逆者」を処刑する「皇帝の友」であり続けるため(ヨハネ 19:12)、人々の要求を受け入れた

十字架の再発見

・ 肉体的苦痛の象徴：出血、ショック、空腹、脱水症状、窒息…

・ 精神的苦痛の象徴：呪い、非国民・反逆者、見せしめ、嘲笑、罵り、辱め…

・ 人間の罪の象徴：裏切り、否定、恐れ、ねたみ、自己保身…

・ 神の愛の象徴：

「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。」(ルカ 23:34)

「実にキリストは、わたしたちがまだ弱かったころ、定められた時に、不信心な者のために死んでくださった。正しい人のために死ぬ者はほとんどいません。善い人のために命を惜しまない者ならいるかもしれませんが。しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。」(ローマ 5:6-8)